

# オートレフラクトメータ

## 【目的】

他覚的におおよその遠視、近視、乱視量などを測定するため。  
測定したデータをもとに視力検査を行っていく。



## 【検査方法】

- ① 指示書右上のバーコードをスキャンする
- ② アルコールを含ませたティッシュで顎台、額あてを消毒する
- ③ 患者さんの座高に合わせておおまかに台の高さを合わせる
- ④ 顔をのせてもらい、額をしっかりとつけた後、患者さんの目の位置とアイレベルマーカールの位置が同じになるように合わせる
- ⑤ 「眼を大きく開けて中の気球をまっすぐ見ていてください。」  
↓患者さんが実際に見えている絵



瞳孔にまぶたがかかっている、まつげがマイヤーリング上にある場合など必要に応じてまぶたを拳上する

～レフ3回ケラト3回測定し終えた後、他眼も同様に測定する～

- ⑥ 両眼測定終了したら画面横の左下のボタンを押して印刷する  
印刷と同時に電子カルテに測定結果が送られます。

**！注意点！**

・ご年配の方は特にまぶたが瞳孔にかかっていることが多いです。拳上せずに測定すると測定結果の信頼値が低くなってしまふ為、必ず拳上をお願いします。

・低視力の方や視野が欠損している患者さんは、見えづらふ為測定中どこを見たらいいか分からない事もあります。必要に応じて「正面だなと思ふところをまっすぐ、見ていてください。」など声の掛け方を変えてみてください。

マイヤーリングから瞳孔がずれていたら、ex)今見ているところよりも少し右を見てくださいなど視線を具体的に誘導してあげると良いと思ふます。

・目の表面が乾いているとマイヤーリングがにじみ、ケラトが測定できない場合があります。その場合はまばたきを促してください。

オートレフラクトメータの値  
(他覚的屈折度数)

球面度数

乱視度数

乱視の軸

右眼

代表値

左眼

オートケラトメータの値  
(角膜曲率半径)

NAME	2006.	5.17	3:50	M. F
VD	12.00	mm		PM
<R>	S	C	A	
	-6.00	-1.50	166	
	-6.00	-1.50	166	
	-6.00	-1.50	166	
	<-6.00	-1.50	166>	
	mm	D	deg	
<R1	7.91	42.75	167	
<R2	7.61	44.25	77	
<AVE	7.76	43.50		
<CYL		-1.50	167>	
<L>	S	C	A	
	-7.00	-1.25	8	
	-7.00	-1.25	8	
	-7.00	-1.25	9	
	<-7.00	-1.25	8>	
	mm	D	deg	
<R1	7.92	42.50	8	
<R2	7.66	44.00	98	
<AVE	7.79	43.25		
<CYL		-1.50	8>	
PD	61			

信頼度数

弱主経線の角度

強主経線の角度

角膜乱視